東白川村
美しい村づくり
委員会

第 102 回

○場　所：神土交流サロン
○時　期：令和７年 11 月４日　19：00～21：00
○参加者：委員５名　行政３名　一般１名

第１　村長あいさつ

みなさんこんばんは。10 月末と 11 月初めと 2 週続けて「みんなの学び合い会」が開催されました。私も参加しまして、とても良い話が聞けた感想を持ちましたので、このまま続けていきましょう。

さて、10 月 24 日には、東京にて「日本で最も美しい村」連合の 20 周年記念大会があり、そこで新たな方針の宣言が発表されました。この宣言にも「自然と文化を守り、未来へ継承すべく連帯した学びを実践すること」がうたわれています。これは、美しい村づくり委員会の趣旨、また今年度新しい取り組みである「みんなの学び合い会」の活動にも当てはまり、大変嬉しく感じました。委員会の活動を引き続きよろしくお願いいたします。

第２　第５期美しい村づくり委員会について

みんなの学び合い会について事務局から説明を行いました。

メインミッションである「みんなの学び合い会」の目的の確認と進捗状況の報告の後、それぞれのテーマについて話し合いを行いました。

【10 月 25 日開催「水が語る里山のこと」の振り返り】

・スタッフ入れて 36 名、スタッフと岐阜大学の学生を除いて 22～23 名の参加があった。

・質問も思ったよりたくさんあってにぎわった。今週の日曜あたりに、ケーブルテレビでノーカット放送される予定。

（参加したメンバーの感想）

・森に降った雨はすべてが下流に流れていくわけではなく、樹冠にとらえられ蒸発して空に還っていく分があるなど、新たな知識を得た。一般的に広葉樹林のほうが水源涵養機能や流量の平準化機能が高いと言われているが、場合によっては人工林でも高い機能が発揮されることを知り、希望が持てた。

・森に降った雨が川を流れて海に出て、蒸発して雲になり陸に雨を降らせる、という地球規模の循環の話があった。地球の長い歴史からみると、水が水素と酸素に分解されて多少は宇宙に出ていったり、マントルから水分が供給されることはあるが、地球上の水総量はほぼ一定で、形を変えて循環しているとのこと。

・かなり専門的な内容だったので、もう一度村のケーブルテレビで見直したい。

・専門用語などが一般向けとしては少し難しかったと思うが、一般的に言われている山の機能について、具体的なデータや測定方法などを知ることができたのが興味深かった。

【11 月 1 日開催「鳥の実態調査からみる 環境に配慮した森林管理」振り返り】

・参加者はスタッフ込みで 22 名。連休の初日で、様々なイベントと重なり、参加者は少な目だった。

・まず WWF ジャパンから活動紹介があり、バードリサーチから村内のタイプの異なる４種類の森林で鳥類の生息を調査した結果の報告があった。その後、1 時間ほどグループで話し合った。

（参加したメンバーの感想）

・東白川村の人工林は、富士山麓の手入れ不足の人工林と比べて、鳥の種数・個体数が多かった。土や岩の穴に巣を作る鳥など、作業道の崖のようなところがあるからこそ生息できる鳥がいることに驚いた。青い鳥（オオ

ルリ）も生息しているそうなので、実際に見てみたい。

・自分たちの知らない鳥がたくさんいて驚いた。以前この会で「最近見かけない」という話も出たアカショウビンも確認された。

・いつも農作業のときに聞いている声の正体がわかった。バードリサーチのウェブサイトを見たら、村内でも確認された外来種のガビチョウは、他の鳥の鳴き声をまねるため、調査をするのはやっかいとのこと。村ではウグイスが少ないということだった。

・実際に現場に行って声を聞きながら説明を受けてみたい。自分の家のそばでよく見る川の鳥は対象ではなかったのは残念。

・木のうろを利用する鳥や、朽木に住む虫を食べる鳥もいて、朽ちた木も鳥にとっては必要とのこと。

・全国的にスズメが減少している理由を聞いたら、エサの減少と、巣を作る場所がなくなったことが大きいとのこと。スズメは昔の瓦屋根の隙間に巣を作るが、現代的な家には巣を作ることができない。

・東京にいたとき、ビルに囲まれた日比谷公園の木造のあずまやの六角形の屋根の各角すべてにスズメが巣を作っていて、あずまやの下で弁当を食べるとスズメが六方で大騒ぎしていた。それだけスズメの住宅事情はひっ迫しているようだ。

・うちは瓦屋根だがスズメが巣を作っていないなぁと思ったら、そういえばヘビがいるからではないかと思った。

・博多では、町の中に階段状のビルの各段に木を植えた建築がある。20 年以上経て植生を調査すると、鳥が種子を運んだことにより、当初植栽したよりも多くの種類の植物が確認された。鳥の種類も増え、食物連鎖の頂点に位置する猛禽類も見られるようになったという。

（環境に配慮した森林施業）

・「FSC の森は東白川村の森林の何パーセントか？（答え：約 70%）」「全国では何パーセントか？（答え：数%）」などのクイズがあったが、このように東白川村では先進的な取り組みをしていることをもっと多くの人に

知ってもらえるとよい。

・FSC®認証は、環境面等での価値を認証しているので、木の強度などの機能性は他の木材と変わらず、現在は FSC®材だからといって高く売れるわけではない。今後、企業などが「FSC®認証材しか使わない」というような流れになり、価値が上がることが望まれる。

第３　第３　私の近況報告

参加者全員から近況について発言し雑談ワークショップを行いました。

第４　情報提供（事務局）

・10 月 25 日、26 日は、名古屋学芸大学のボランティアサークル学生が学祭で東白川村の産物を販売。

・10 月 12 日は、がんばる地域づくり補助金によるバイクイベント第３回目を開催。

・暦くらすは、9 月 20 日に山の植物観察会を実施。15 名程度の参加があり、10 月４日には山野草の寄せ植え会が開催される。

・10 月４日は美しい村の日。10 月５日に河川清掃が行われ、美しい村の日イベントとして「日本で最も美しい村」連合に報告する。

・東白川村は「日本で最も美しい村」連合に加盟して 14 年、昨年度の再審査では「限りなく A に近い B」の評価がされた。この委員会の活動も評価ポイントの１つ。再審査では、景観条例や景観計画の策定、歩いて楽しめる仕掛け、ブランドの統一感の確立、登録地域資源の見直しなどについて提案があった。

〈意見〉

・登録資源として、つちのこを加えては？

・現在の河川清掃はごみ拾いであるが、川沿いのネコヤナギの繁茂がすごいので、こうしたものを刈るというのも美化活動に加えられないか。切ったヤナギをどうするかというのが問題。

・村内ではすでに環境に配慮した活動をいろいろやっているが、村民の方にあまり知られていないので共有したい。

〈環境宣言について〉

以下、村長からの情報提供を受け、意見交換を行いました。

・村長、村議会、村内の各団体と連名で「東白川村　自然と共生する美しい村宣言」というのを出そうと計画している。

・なぜこれを出そうと思ったかというと、先ほどの FSC®とかカーボンオフセットなど、とてもよい取組を村ではやっているものの、そのことはあまり知られておらず、そういったものがもっと村民の誇りや心の支えになったらよいと考えたため。

・持続可能な未来のためには、環境を大事にして経済的にも回るようにしていかないといけない。

・村には自然環境保全条例というのがあり、自然を壊してはいけませんよ、という内容だが、そこから一歩進めて、もっとこういうことをやったらどうか？という内容となる予定。

・３月に講師を招き講演会を行い、議会、各団体と連名で宣言する予定。

第５　閉会（21：00）

〈次回〉　12 月 12 日（金）　19 時から　神土交流サロン

第102回美しい村づくり委員会

村長

・学び合い会おつかれさまでした。
～学びた人が集う～

・10/24 美しい村連合20周年宣言ありました。
・自然と文化…学び合い。
→委員会活動と合致。
→活動は常に考えながら。

・環境宣言

・木曽三川会ギ（アクアトト）
→ホタル・カワニナをよそのいから ×

FSCの素 ↔ 経済性

補助金を施策

LINE と 登ロクメール

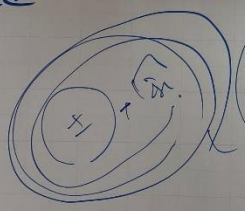
日本

自然と共生する美しい村宣言

各団体共同宣言。
美しい村づくり講演会

目的 具体的

自然に根差した文化や風景は
私たちの心のふるさとです。
環境と経済の両立を目指す
先進的な取組



多様性

備長炭 × テクノロジー
木の特性と炭づくり
↳ 持続可能性

臭い ← 人の生活スタイル

美しい村！ ← 移住者発信

学校で村づくり
宣言の意義について
村出身者へ（つながり）
子どもたちへ自然を伝える。

・本出版しました。
・アレルギー
・11/21 FSCが動いた。
→ 多文化対応
・耕さない農業
〜私から私たちへ
ダンボール農法
・不耕起回りぼ ← 年中水
・土がやわらかい ← 年中水

・広いさくら学園視察
→保育園 ― 中学校
地域開放
・中学校 校舎利用

29億

以上